

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和 7 年 4 月 17 日（木）に実施されました全国学力・学習状況調査の本県の結果の概要等については、下記のとおりです。

記

1 教科に関する調査結果の概要

（1）平均正答率

小学校			中学校		
国語	算数	理科	国語	数学	理科
66.1%	57.1%	56.0%	53.2%	47.4%	498
(66.8%)	(58.0%)	(57.1%)	(54.3%)	(48.3%)	(503)

※（ ）の数値は全国（公立）の平均正答率

※中学校理科は IRT スコア

【参考】

・IRT（項目反応理論）

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論

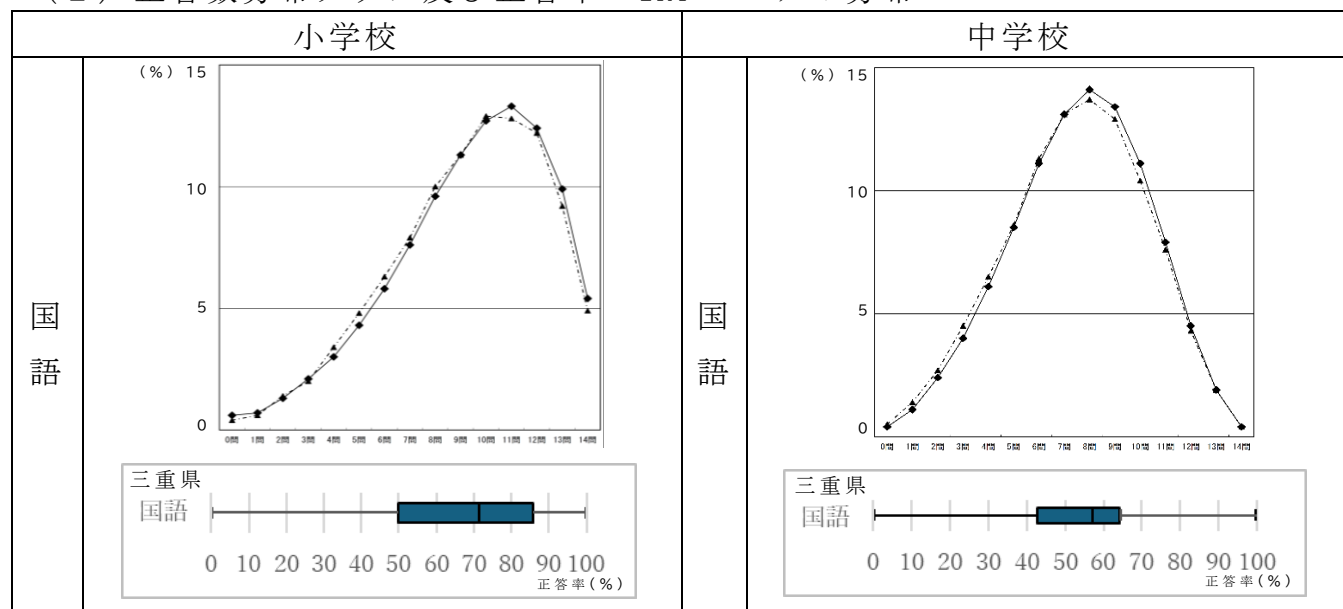
・IRT スコア

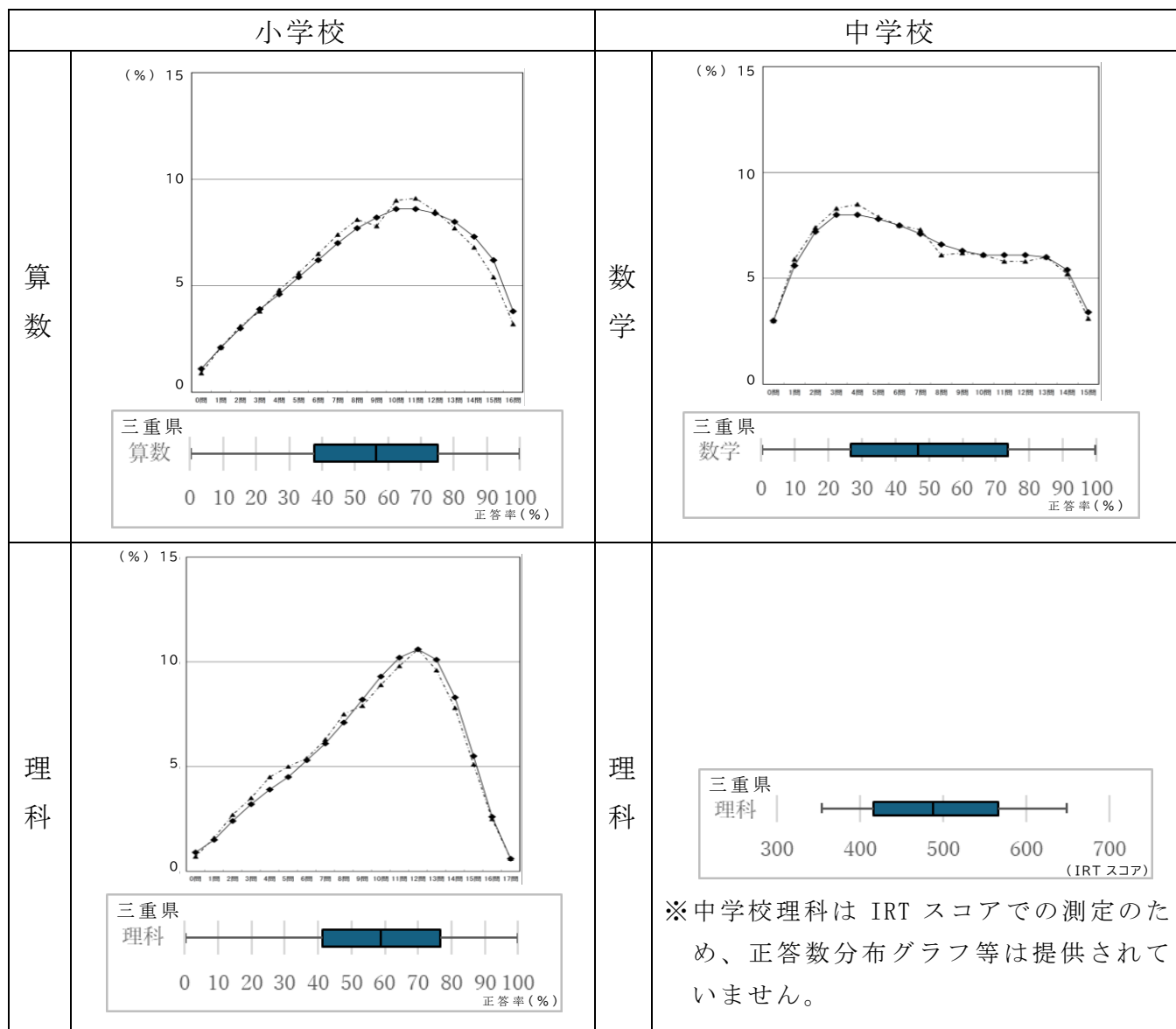
IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの

—▲— 三重県（公立）

—●— 全国（公立）

（2）正答数分布グラフ及び正答率・IRT スコアの分布



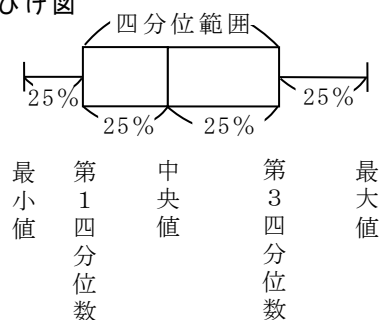


- ・正答率の分布を見ると、全国と三重県で概ね大きな差は見られません。
- ・小学校では、箱ひげ図の箱の位置が算数、理科よりも国語の方が右側に位置しており、算数、理科に比べて国語の正答率がやや高い傾向が見られました。
- ・中学校では、数学において四分位範囲が広がっており、正答率がばらついている様子が見られました。

箱ひげ図とは、データの分布を大まかに把握するためのグラフです。箱（長方形）とひげ（線）を使って、データの最大値・最小値・四分位数を表します。

- ・上図の箱の部分、正答率の順に児童生徒を並べたとき、中央付近の約 50%の児童生徒が、どれくらいの正答率であったかを示します。

・箱ひげ図



四分位数

データを四等分した数で、下から $1/4$ にある数を第1四分位数、中央値を第2四分位数、上から $1/4$ にある数を第3四分位数と表します。

四分位範囲

データの中央付近の約 50%が含まれる区間の大きさ（第3四分位数と第1四分位数の差）を表します。

2 児童生徒質問調査の主な結果

※（ ）の数値は、全国平均との差

(1) 自己肯定感等

① 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある（肯定的な回答）

	R4	R5	R6	R7
小学生	—	90.1(−0.9)	92.1(+0.4)	93.1(+0.1)
中学生	—	87.9(+1.1)	90.6(+0.8)	91.9(+0.3)

※R5 から新規

② 自分には、よいところがある（肯定的な回答）

	R4	R5	R6	R7
小学生	77.9(−1.4)	81.9(−1.6)	82.4(−1.7)	85.1(−1.8)
中学生	79.7(+1.2)	80.9(+0.9)	83.8(+0.5)	86.8(+0.6)

③ 先生は、あなたのよいところを認めてくれている（肯定的な回答）

	R4	R5	R6	R7
小学生	87.0(−0.1)	89.8(0.0)	90.6(+0.7)	92.5(+0.3)
中学生	88.7(+2.1)	89.2(+1.9)	91.4(+1.0)	92.7(+0.5)

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した割合が年々上昇しています。

「自分には、よいところがある」と回答した割合が年々上昇しており、自己肯定感が高まっています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した割合も年々上昇し、全国平均より高い状況です。

(2) 学習習慣

① 平日の学習時間（1時間以上）

	R4	R5	R6	R7
小学生	56.5(−2.9)	54.0(−3.1)	50.6(−4.0)	50.3(−3.7)
中学生	68.5(−1.0)	64.9(−0.9)	63.2(−1.1)	60.5(−1.1)

② 休日の学習時間（1時間以上）

	R4	R5	R6	R7
小学生	48.2(−7.9)	44.7(−7.8)	40.4(−8.2)	38.0(−9.1)
中学生	64.7(−6.1)	59.6(−5.7)	55.6(−7.4)	49.8(−8.1)

小中学生とも、「平日の学習時間」「休日の学習時間」において1時間以上と回答する割合が年々低くなり、全国平均より低い状況が続いています。

3 調査結果を受けての対応

県教育委員会では、教科に関する調査や質問調査の結果について、多面的な視点から分析を行います。明らかになった課題をふまえ、子どもたちのやる気や自信につながる授業改善や、学習習慣の確立に向けた取組を進めます。あわせて、これまで効果があつた取組を水平展開し、三重の子どもたちの確かな学力の育成に努めます。